

## 小学校国語科における論理的思考力・表現力の育成 — 文章構成に着目した「読むこと」「書くこと」の関連指導 —

篠原 京子

Teaching methods of logical thinking and expressiveness on Elementary School “Japanese Language”  
: Related teaching of “Reading” and “Writing” with a focus on text structure

Kyoko Shinohara

### 要 旨

国語科は「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して」国語の理解や表現について学ぶ科目である。しかしながら、小学校国語科の論理的文章（小学校学習指導要領では「説明的な文章」といわれる）を「読む」学習では、社会科や理科と同様の内容中心の読み取りが行われている例が多いのが現状である。国語科で論理的文章を「読む」目的を「①論理的文章の読み方を教える②書く手本として読む」と明確にすることで学習効果を上げることができることを主張する。この考え方に基づき、本稿では「②書く手本として読む」指導の一案として、文章構成に着目した「読むこと」「書くこと」の関連指導によって論理的思考力・表現力を効果的に高める方法を提案する。

キーワード：論理的思考力・表現力、論理的文章、文章構成、「読むこと」「書くこと」の関連指導

### 1. 問題の所在

大学の「国語」の授業で論理的文章の指導をしている。文学的文章との違いや文章構成、段落、キーワード、要約等については小学校でも学んだはずだが、多くの大学生が「初めて知った」「もっと早く知りたかった」との感想を漏らす。

小学校では、国語科でも社会科や理科と同様に情報の読み取りに終始する例が多く、さらなる調べ学習に多くの時間を費やすことも珍しくない。このような実践の場での現状について、渋谷（1987）は、『国語』科の時間の、特に説明的文章の読解指導において、実物や図鑑などを使って事柄について調べる」理科のような学習や「主題追究のた

めの調べる作業と関連の参考書を読む読書活動が混りあって、社会科学習のようになっていることがある」とし、「言葉を使う教科（社会・理科など）と、言葉を学ぶ教科（国語科）との区別の意識がない」と述べている<sup>(1)</sup>。国語科におけるこの課題は現在も改善されていない。

2017年版小学校学習指導要領の国語科の目標でも「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（以下略）」と、国語科が言葉を学習する教科であることが明確に示された。

国語科では「言葉」という観点から、他の文章に活用できる汎用的な読み方・書き方の技術を指

導する役割を担っている。そこで、国語科で論理的文章を「読む」目的を「①論理的文章の読み方を教える②書く手本として読む」とし、文章構成を意識して「読む」「書く」ことで論理的思考力・表現力の向上を図りたい。本稿では「②書く手本として読む」指導の一例として、文章構成に着目した「読むこと」「書くこと」の関連指導を提案する。

## 2. 研究の目的

- (1) 「読むこと」「書くこと」の関連指導における基本的な文章構成の役割を明らかにする。
- (2) 論理的文章教材の「読むこと」「書くこと」の効果的な関連指導の方法を提案する。

## 3. 研究の方法

- (1) 三つの短い論理的文章を読み、基本的な文章構成を学ぶ指導の実践を報告する。
- (2) 「読むこと」で学んだ基本的な文章構成を「書くこと」に活用する方法を提案する。

## 4. 「読む」「書く」関連指導に関する先行研究

- (1) 「内容主義」「形式主義」「吟味（評価・批判）」

阿部（2021）<sup>(2)</sup> は説明的文章を読む学習で「専らその内容を理解することを重視」する「内容主義」を否定した。また「キー・ワードを見つける、要約をする、要旨をまとめる」だけの「形式主義」でも深く読む力はつかないという。一方「説明的文章の『読み』の指導を『書き』の指導に立体的に関連させていくことは重要」とし、小学5年生の教材文の「吟味（評価・批判）」での学びを「書き」に発展させる指導を提案している。

「内容主義」では不十分だという考えには賛成である。しかし、まだ文章の基本的な書き方を身につけていない小学生が、詳細な「吟味」の結果を自分の「書くこと」に応用するのは難しい。「文章構成」という「形式」に絞る方が現実的に有効だと考える。

## (2) 文章構成に着目した関連指導

長谷川（2018）<sup>(3)</sup> は「これからの中・高等学校の国語科授業では、論理的文章を『書く』ために読むという指導が重要」と主張する。そして、「事実を複数取り出し、その事実から考察や結論を導く過程を表現した文章」を書くことが論理的思考力・表現力につながるとの考え方から、田中潔（1994）『手ぎわよい科学論文の仕上げ方 第2版』（共立出版）はじめ24種類の科学論文の書き方指導書を分析した。その上で、「『文章構成』『段落・キーワード』『事実の書き方』という項目は、中・高校生の論理的文章の指導で効果的な学習事項として期待できる」と述べている。

さらに、長谷川はこの観点で中学校の教科書教材を分析・評価し、優れていると評価した教材による実践を行っている。「本教材で文章構成の学習をしたことで、この後に行った小論文の学習につなげやすかった」と考察し、「読む」での文章構成の学習が「書く」の指導に有効だったという成果を報告している。

これまでの自分自身の指導経験から、長谷川の指導方法は小学生にも有効であると考えられる。

## (3) 言語技術教育実施国における論理的文章の扱い方

三森（2021）<sup>(4)</sup> は、中学二年生からドイツのギムナジウム<sup>(5)</sup> で言語技術教育を受けた自身の体験に基づき、社会生活における言語技術の有効性及び言語技術教育の必要性を主張している。

三森が学んだドイツを初め、その他主に欧米の言語技術教育実施国では、「読む」の教材はほとんどが文学作品だという。そして、論理的文章の扱い方については、以下のように述べている<sup>(6)</sup>。

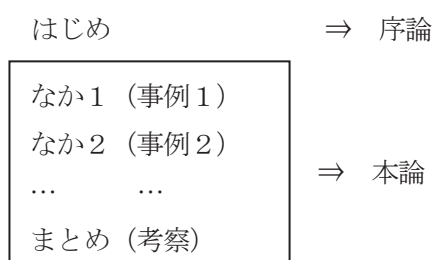
評論文や新聞記事、データなどもむろん読みの対象ではあるものの、それは母語教育というよりはむしろ現代社会や歴史、哲学などの他の教科で扱われる。メディアリテラシー（情報リテラシー）と呼ばれる、記事や広告、インターネット上の情報など、様々な情報を読

む行為もまた、母語教育、あるいは必要に応じてその他の教科で扱われる。また、説明文は作文教育と密接に繋がり、有効な説明的文章の記述のためにそうした文章を読むことになる。(下線は篠原による)

内容の読み取りは他の科目での比重が高く、説明文は「記述のために」読むという論理的文章の扱い方は筆者の考えと一致している。三森によれば、この「言語技術」という考え方は、「ギリシャ文化の恩恵を受けた欧米やその周囲の言語文化圏に影響を与え、長い年月の間に体系化され、現在に至っている」<sup>(7)</sup> という。日本の国語科教育でも、今後これらに学んだ体系化が喫緊の課題となる。

## 5. 論理的思考力・表現力を育成する文章構成

論理的思考力・表現力の向上には、思考の型を身につけることが有効である。一般に「序論・本論・結論（小学校では「はじめ」「中」「終わり」とされることが多い）」と言われるが、「本論」をさらに「事実を提示する部分」と「考察の部分」に分けると思考の流れが明確になる。その考え方から、市毛（2010）は、以下のような文章構成<sup>(8)</sup>を提案している。



次章に、この構成を活用した実践例を示す。

## 6. 指導の実践

常葉大学大学院の「実践的教材開発研究Ⅰ（国語）」の授業の一環として、2020年1月14日（火）に常葉大学附属橘小学校第6学年1組（在籍16名、出席13名）を対象に行った研究授業について報告する。

### (1) 授業のポイント

- 1) 論理的文章の基本的な文章構成を学ぶ。
- 2) 複数（本時では3編）の教材で文章構成とキーワードの理解を深める。
- 3) 「書くこと」へ向けて、事実を根拠に意見を述べる練習をする。

### (2) 単元名

論理的文章の構成を知ろう

### (3) 単元の目標

- 1) 論理的文章の基本的な文章構成を理解する。
- 2) 構成の整った論理的文章を書く。

### (4) 指導計画（5時間扱い）

一次 基本的な文章構成を知ろう（本時）

二次 論理的文章を書こう

第1時 キーワード表を作る

第2時 一次原稿を書く

第3時 二次原稿を書く

第4時 評価の授業

### (5) 本時の指導

#### 1) 目標

論理的文章の基本的な文章構成を理解する。

#### 2) 展開

##### ①学習内容を知る

T 論理的文章の基本的な文章構成について学習します。

##### ②論理的文章の基本的な文章構成を学ぶ

###### i 基本的な文章構成<sup>(9)</sup>

T 基本的な文章構成の説明を読みましよう。

表 1 論理的文章の基本的な文章構成

構成	役割
はじめ	全体のあらましを書く。
なか1	1つの例を詳しく書く。 (感想、意見は書かない。)
なか2	「なか1」とは別の具体例を一つ書く。 (感想、意見は書かない。)
まとめ	「なか1・2」に共通する性質(感想・意見)を書く。
むすび	「まとめ」で述べた性質が全ての人に当てはまるという主張を書く。 (論説だけ)

T 次の3つのうちで論理的に正しい構成はどれでしょう。

1	おまつりに行った。 おめんを買った。 わたあめを食べた。 楽しかった。
2	おまつりに行った。 おめんを買った。 わたあめを食べた。 おいしかった。
3	おまつりに行った。 サイフを落とした。 金魚すくいをした。 楽しかった。

図 1 正しい構成はどれか

【解 1 番目】

ii 「なか」と「まとめ」

T 「なか」に合う「まとめ」を選びましょう。

1	はじめ ぼくは、きのう上野動物園に行った。 なか1 ペンギンが水の中をすいすい泳いでいた。 なか2 さる山で子ざるたちが追いかけてっこをしていた。 まとめ ( ) 子ざるがかわいかった。 ( ) 動物たちは活発に活動していた。 ( ) 飼育員の日々の努力に感心した。
2	はじめ 私には吉田さんという友達がいる。 なか1 吉田さんは私の逆上がり練習を毎日手伝ってくれた。 なか2 吉田さんは私が腕を折ったとき、かばんを持ってくれた。 まとめ ( ) 吉田さんは、とてもかわいい人だ。 ( ) 吉田さんは、誰からも好かれている。 ( ) 吉田さんは、とても親切な人だ。
むすび	動物は生態にあった環境で元気に育つ。
むすび	よい友人をずっと大切にしたい。

図 2 「なか」に合う「まとめ」はどれか<sup>(10)</sup>

【解 1 動物たちは活発に活動していた。  
2 吉田さんはとても親切な人だ。】

iii 事実と意見

T 事実か意見か、どちらかに丸を付けましょう。

1 小川さんは、昨日動物園に行った。	事実	意見
2 田中君は、髪が短い。	事実	意見
3 静岡県には自然がたくさんある。	事実	意見
4 日本で一番高い山は、富士山だ。	事実	意見

図 3 事実か意見か

【解 1 事実 2 意見 3 意見 4 事実】

〈考察〉

「はじめ・なか・まとめ・むすび」の構成を示し、それに関する練習問題を行ったことで、理解を深めることができた。

③同じ構成をもつ複数の論理的文章を読む

i 「お父さんの仕事」<sup>(11)</sup>

T 論理的文章を読んで、文章構成と各段落のキーワードを調べましょう。今日は「まとめ」までの文章です。

T 「お父さんの仕事」を声をそろえて読みましょう。

1	お父さんの仕事 ぼくのお父さんは、地下鉄の会社ではたっている。 (はじめ) お父さんは、地下鉄のじこがないように毎日せんろの点検をしている。 (なか1) お父さんは、安全に走行できるように車両のせいびもしている。 (なか2) お父さんは、がんばっている。 (まとめ)
---	---

図 4 教材文1「お父さんの仕事」

T 「なか1」「なか2」のキーワードを書きましよう。

表 2 「お父さんの仕事」文章構成表

文章構成	キーワード
はじめ	お父さん
なか1	
なか2	
まとめ	がんばっている

【解 なか1 せんろの点検・  
なか2 車両のせいび】

ii 「年末の大そうじ」<sup>(12)</sup> (同様に進める)

2	年末の大そうじ
	年末の日曜日、家族で大そうじをした。 (はじめ)
	わたしと兄は玄関前のそうじをした。ちりとりとほうきを持ってきて、二人ではいた。強い風がふいてきて、せっかく集めた落ち葉がちりぢりになった。兄がかき集め、わたしがちりとりでふくろにすぐ入れるようにしたら、少しずつきれいになった。(なか1)
	母と父は不要品選びをした。その中に、わたしが昔使っていたおもちゃが入っていた。母がゴミ袋に入れようとしたので、「それはとっておいて。」と強く言った。母は、こまった顔をしていたが、「自分でとっておきなさい。」と言ってわたしに渡してくれた。(なか2)
	家族とそうじをしたら、すっきりした。 (まとめ)

図5 教材文2「年末の大そうじ」

表3 「年末の大そうじ」文章構成表

文章構成	キーワード
はじめ	大そうじ
なか1	
なか2	
まとめ	すっきりした

【解 なか1 玄関前のそうじ・  
なか2 不要品選び】

iii 「ミツバチの仕事」<sup>(13)</sup> (同様に進める)

3	ミツバチの仕事
	ミツバチの仕事の仕組みを調べた。 (はじめ)
	ミツを集めるミツバチは、ミツだけを集める。一つの花のミツの量はほんのわずかである。そのため、一回のミツ集めに、平均すると二五〇個の花を訪れ、四〇～七〇ミリグラムのミツを集める。これは、体重が八〇ミリグラムほどのミツバチにとっては重労働である。ベテランになると三〇～四〇分で一回のミツ集めを終えて、一日に一〇～一五回も巣にミツを運ぶ。(なか1)
	花粉を集めるミツバチは、花粉だけを集める。おしべの花粉を、大あごと前足ですばやくかき落とす。体には、花粉がくっつきやすいように、枝分かれした毛がふさふさとはえており、花の上をはいずり回るうちにミツバチの体は花粉まみれになる。一回の花粉集めに三〇個ほどの花を訪れ、両方の後ろ足にある花粉バスケットに、それぞれ一〇～二五ミリグラムの花粉団子を作る。(なか2)
	ミツバチは、仕事を分業している。 (まとめ)

図6 教材文3「ミツバチの仕事」

表4 「ミツバチの仕事」文章構成表

文章構成	キーワード
はじめ	ミツバチの仕事
なか1	
なか2	
まとめ	分業している

【解 なか1 ミツを集める (ミツバチ)・  
なか2 花粉を集める (ミツバチ)】

〈考察〉

三つの教材の文章構成とキーワードを同じ手順で学習したことで、複数の実例をもとに帰納的に理解を深めることができた。

④根拠を示して意見を述べる練習をする

i 「まとめ」を決める

T 根拠を示して意見を述べる練習をしましょう。

T 一年を振り返り「まとめ」を選びましょう。

- ア よく頑張った (10 / 13 名)
- イ 努力が足りなかった (3 / 13 名)
- ウ その他 (0 / 13 名)

ii 「なか」の候補を思いつくままに書き出す  
 T 「まとめ」の根拠となる事実を書き出しましょう。

iii 「なか」を二つ決める  
 T 説得力のある事実を二つ選びましょう。

iv 文章構成表を書く  
 T 文章構成表に一文ずつ書きましょう。

(はじめ) 私の一年間を振り返る。 (なか1) バザーの実行委員をした。 (なか2) 委員会の委員長になった。 (まとめ) よくがんばった。
(はじめ) ぼくの一年間を振り返る。 (なか1) 自分の意見をはっきり言えなかった。 (なか2) 話すときの声が小さくなってしまった。 (まとめ) 努力が足りなかった。
(はじめ) 私の一年間を振り返る。 (なか1) 受験勉強をした。 (なか2) 児童集会の企画書作りをした。 (まとめ) よくがんばった。

図7 児童が作成した文章構成表の例

v 発表する  
 T 4人の班で発表し、「なか」と「まとめ」が適切か話し合ひましょう。

〈考察〉

「はじめ」は全員共通、「まとめ」は三つから選択させた。友達に発表することで、「なか」が意見ではなく事実の記述になっているか、「なか」と「まとめ」がつながっているかを検討できた。

⑤学習のまとめ

i 授業の感想を書く。  
 T ワークシートに感想を書きましょう。

ii 感想を発表する。  
 T 順番に感想を発表しましょう。

【児童の感想の例】

- A なか1となか2には反対のことを書いてはいけないということが分かった。
- B キーワードを探すことで簡単に文章が分かることを初めて知った。
- C 事実と意見の区別をつけることができた。論理的文章の基本的な構成を知ることができた。
- D 文章の書き方がとても分かりやすかった。要約の仕方が分かった。とてもおもしろかった。
- E 基本的な構成を作ることによって上手に文章を作ることができると思った。
- F 文章の構成が理解できたので、日記もそのやり方で書きたいと思った。
- G 分かりやすい文を書きたいと思った。

〈考察〉

文章構成やキーワードの効果を実感し、要約や「書くこと」への意欲も高まったことが、児童の感想から分かった。

(6) 板書計画

論理的文章の構成を知ろう 文章構成 はじめ なか1 2 全体のあらまし 具体例1 具体例2	感想 事実と意見を区別する 事実を根拠に意見を述べる練習 共通する感想・意見 すべての人に当てはまるという主張	まとめ 2 : 具体例2	感想 事実を根拠に意見を述べる練習 共通する感想・意見 すべての人に当てはまるという主張
--	---	-----------------------	---

図8 板書計画

### 7) 参観者の感想・意見

参観者（常葉大学教職大学院1年次12名）の検討会での主な感想・意見は以下の通りである。

- A 教材を読むことを書くことにつなげていてよかった。書くための知識や技術をしっかり教えることも大切だと感じた。
- B 国語の授業のイメージが変わった。授業の前半で知識を教え、後半でそれを活用していた。
- C 対話だけで済ます学習が多いが、教えるべきところは教えることが大切だと感じた。児童は繰り返しの学習が楽しそうだった。
- D 何ができるようになるかが明確な授業だった。kさんは初め自分で書き出さなかったがそのうち理解して書いた。教わったことを使ってみてより深く理解できるところが、算数の授業と似ている。
- E これまでのような一つの教材で多くの指導事項だと結局使えない。複数の教材を用意し、一つ目の教材で学び、二つ目から自分でできるのがよい。
- F 「キーワードをつなげると要約ができる」と聞いたときに「あーあ」「すごい」と声が上がり、国語での学びを実感できた。「教えたいこと」と「教材」「活動」が適切にそろっていた。
- G 「事実」「具体」「主張」などの言葉は六年生にとって難しいのではないかと思っていたが、教師が説明しなくてもその言葉を使いながら授業が進むうちに子ども達が理解していくのが感じられた。

### 7. まとめ

国語科は「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して」国語の理解や表現について学ぶ科目である。国語科で論理的文章を「読む」学習の目的を明確にして、「文章構成」に着目した「読むこと」「書くこと」の関連指導を行うことで論理的思考力・表現力を効果的に高めることができる。

### 8. 今後の課題

- (1) 論理的文章の「読むこと」「書くこと」の関連指導の実践の効果を検証する。
- (2) 論理的文章の「読むこと」「書くこと」の関連指導に効果的な教材を開発する。

#### 注

- (1) 渋谷孝（1987）『「言語」教育の現状と課題——国語科教育は言語の学習であったか——』（全国大学国語教育学会編『国語科教育研究5『言語』教育の理論と実践の課題』明治図書 p. 12
- (2) 阿部昇（2021）『あたらしい国語科指導法六訂版』（柴田義松、阿部昇、鶴田清司編）学文社 pp. 62-69
- (3) 長谷川祥子（2018）「論理的文章を『書く』ために読む指導——中学校国語科授業の研究実践報告——」国文学言語と文芸の会編『言語と文芸』133号 pp. 101-118 おうふう社
- (4) 三森ゆりか（2021）『ビジネスパーソンのための「言語技術」超入門』中央公論新社
- (5) 日本の小学五年生から大学一年生の年齢にあたる生徒が在籍するドイツの大学進学校のこと。
- (6) 上掲（4）p. 37
- (7) 上掲（4）p. 25
- (8) 市毛勝雄（2010）『小論文の書き方指導 4時間の授業で「導入」から「評価」まで』明治図書 pp. 134-136の内容を篠原がまとめたものである。
- (9) 上掲（8）p. 20を基に篠原が作成。
- (10) 西山悦子作成ワークシート（2005）「論理的思考力が伸びる本」pp. 25-26を基に篠原が作成。
- (11) 長谷川祥子編（2019）『国語科・論理的表現を育成する教材集（小中学校編）[第2版]』p. 58
- (12) 上掲（11）p. 79
- (13) 市毛勝雄編（2009）『新国語科の重点指導第3巻 論理的思考力の育て方 教材開発〈報告・論説・モデル教材集〉』明治図書 p. 89

（しのはら きょうこ）東京未来大学